

企画展

# 子どもの節句とお人形

- 会場 | 階 松平家史料展示室
- 会期 令和5年4月13日(木)～6月4日(日)
- 休館日 5月8日(月)、9日(火)、10日(水)

季節の変わり目などに祝祭を行う節句（節供）の起源は、はるか古代にまでさかのぼります。中でも上巳の節句（3月3日）と端午の節句（5月5日）は現在でもなじみ深く、子どもの健やかな成長を祈る行事として、広く定着しました。

これらの節句では、雛人形や武者人形などのお人形を飾ることが行事の中心となっています。実は日本は、世界的に見てもたいへん豊かな人形文化を誇ります。とりわけ江戸時代には、多彩な人形が生み出されました。紙人形や木彫り人形、衣裳の模様を彩色した彩色人形や、裂を張り付けた木理込み人形、精巧な衣裳を仕立てた衣裳人形や、着せ替えができるように関節の動く市松人形、さらに腰・膝・足首の関節が動く三ツ折人形…というように、人形は時代の要望に応じて進化してきました。

本展では、江戸時代に福井藩医を勤めた三崎玉雲家に伝えられた江戸時代後期から昭和時代の雛人形や武者人形を中心に、越前松平家伝来の子どもの着物や人形を合わせ、日本のお人形の魅力をご紹介します。

## 上巳の節句と雛あそび



銀製雛道具・具足かざり 「御大切の細工物」のうち（福井市春嶽公記念文庫）

古くは中国の風習が日本に伝えられたもので、上巳の日（三月の初めの巳の日）にみそぎをして不祥を払いました。日本では、ひとがた（人形。人間の形代、身代わり）として紙雛に災厄を移し、川や海に流すことが行われました。

また、平安時代には宮中で、ミニチュアサイズの室内調度や人形を用いた雛あそびが行われていましたが、やがてこれらが合わさり、上巳の節句に雛人形を飾ることが行なわれるようになりました。江戸時代前期頃には、雛人形だけでなく雛道具やさまざまな人形を飾ってお祝いする、現在のような女の子のためのお祭りとして定着しました。



雛人形 三崎玉雲家伝来（当館）

・雛人形 時代の嗜好に合わせて、特徴的な雛人形が作られました。初期にはシンプルな紙雛でしたが、江戸時代の初めに室町雛、つづいて次郎左衛門雛、寛永雛、享保雛、有職雛、古今雛というように、新たな趣向をこらした雛人形が生み出されました。

（時代を冠した呼び名は近代以降に付けられたもので、人形の実際の制作年代とは一致していないので注意が必要です。）



衣裳人形 小町 三崎玉雲家伝来（当館）

・衣裳人形 衣裳人形は、本物同様の裂地で仕立てた精巧な衣裳が見どころです。広い意味では雛人形や武者人形も含まれます。衣裳人形のバリエーションとして、美人や若衆など市井の風俗を写した風俗人形や、人気を博した歌舞伎役者や遊女を模した浮世人形などが作られました。



御所人形 三崎玉雲家伝来(当館)

・御所人形 ふくよかな乳幼児の姿が白い肌で表された御所人形は、江戸時代中期頃から京都で作られ、宮中や公家の間で愛好されました。「御所」人形の名称は、御所へ贈り物をした諸大名への返礼として下賜されたことによると言います。当時は、その姿態の特徴から白肉や頭大、三ツ割、また販売元の名から伊豆倉人形などと呼ばれました。時代が下ると、より丸々と太った身体にパッチリとした大きな目へと変化していきました。

・市松人形 江戸時代後期から昭和時代初期に流行した、リアルな表情と着せ替えができるのが特徴の人形です。「市松」の由来には諸説ありますが、江戸時代中期の歌舞伎役者・佐野川市松をかたどったものと言われ、手足が縮緬ちりめんで胴体部につなぎ合わされ、自由に動くように仕立てられています。

・三ツ折人形 腰・膝・足首を曲げられるようにした人形で、正座をさせることができます。市松人形の関節の可動域を広げたものと捉えられますが、江戸時代半ばの御所人形の中には、三ツ折仕様のものが見られます。

## 端午の節句と具足かざり

端午の節句も元は中国の風習が伝えられたものです。旧暦の五月は季節の変わり目で不調をきたしがちであることから、端午の日(五日)に菖蒲や薬玉を飾ったり、騎射や競馬を行って邪気を払いました。江戸時代に入り、武家が社会の中心となると、武技に重点を置いたこの日は、男子出生を祝う節句として重視されるようになりました。町人も武家を真似て、戸外に幟のぼりや具足かざり、作り物の兜かぶとを飾るようになりました。やがて戸外の飾りが室内にも飾られるようになり、また兜の前立て部分に飾られていた人形が独立し、多彩な武者人形が作られるようになりました。



武者人形 三崎玉雲家伝来(当館)

・武者人形 衣裳が見どころの衣裳人形の一つですが、神功皇后じんぐうこうごうと武内宿禰たけのうちのすくね、義経と弁慶さかたのさんどき、坂田金時さかたのきんとき(金太郎)など、歴史上あるいは伝説上の勇猛な武人を模した人形が盛んに作られました。

## いろいろな人形

また日本全国では、土地どちの特色を生かした、郷土色豊かな人形も盛んに作られました。木工細工の端材を用いた木彫人形や木屑を活用した練人形は副業として、また特別な材料を要しない素朴な土人形などは全国各地で作られ、現在でも郷土のお土産として愛されています。

また幕末から明治時代にかけて、主に国外を意識して制作された牙彫人形というものもあります。外国との交流が盛んになると、日本の精巧な美術工芸品は、外貨を得るための有力な商品となりました。



牙彫人形 鯉のぼり童子  
(福井市春嶽公記念文庫)

### ※主要参考文献

- 山田徳兵衛『日本人形史』富山房、昭和17年3月3日発行
- 北村哲郎「人形」『日本の美術』第11号、至文堂、昭和42年3月1日発行
- 山田徳兵衛編『図説 日本の人形史』東京堂出版、平成3年8月20日発行
- 池田萬助・池田章子『日本の御所人形』淡交社、平成12年12月14日発行
- 是澤博昭『子供を祝う端午の節句と雛祭』淡交社、平成27年4月10日発行

### 次回の展示

松平史料展示室  
企画展

### 「狩野元昭と大安禅寺の名画」

令和5年6月8日(木)～7月23日(日)

展示解説シート No.159 令和5年4月13日発行  
福井市立郷土歴史博物館 〒910-0004 福井市宝永3-12-1  
電話 0776-21-0489 Fax 0776-21-1489  
担当：佐々木佳美 印刷/宮本印刷